教育のひろば

教育ジャーナリスト
池田知隆

小学校から始まる「キャリア教育」
「生きる力」を育てるために

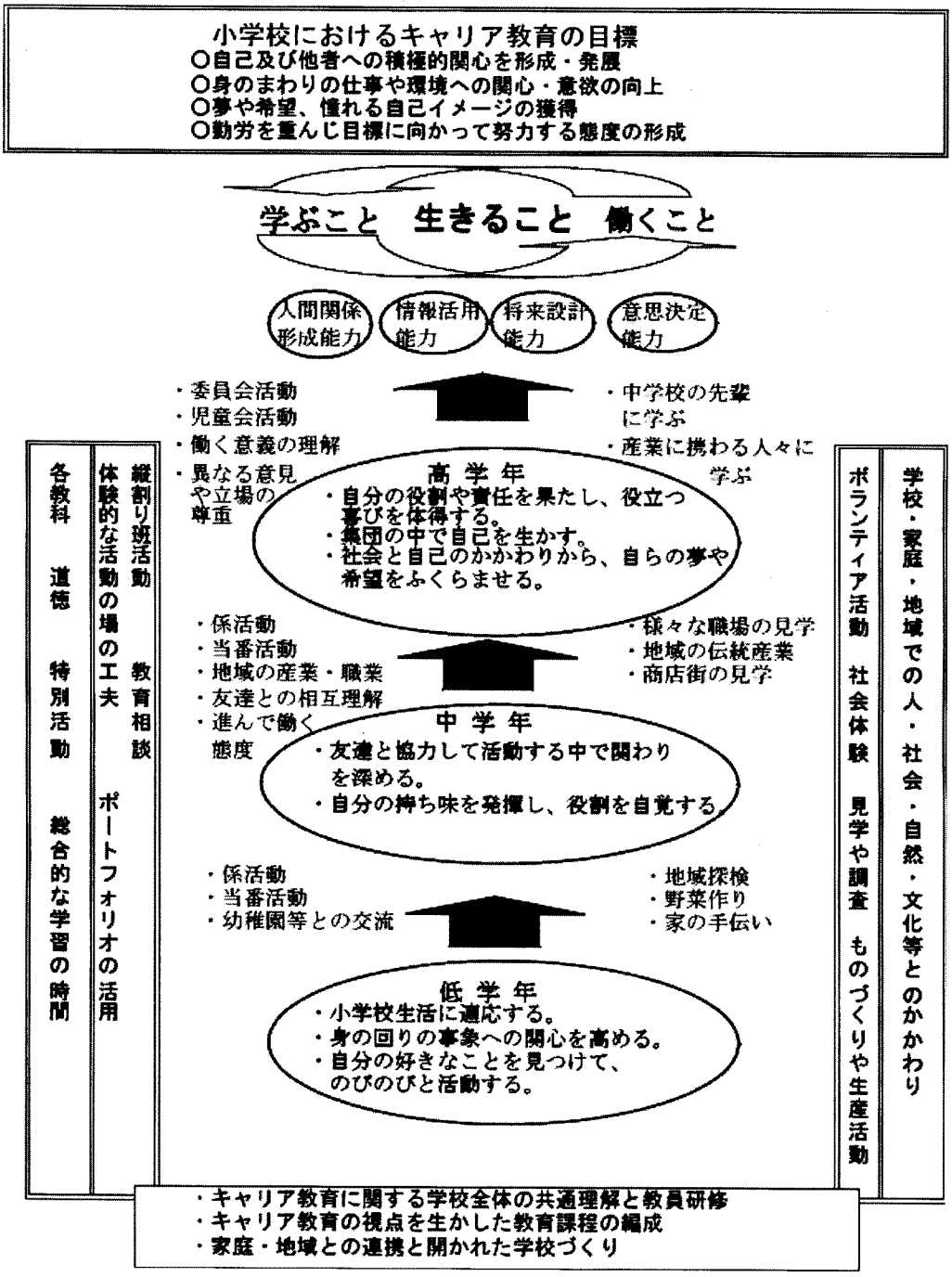
最近、「キャリア教育」という言葉がよく使われる。キャリアといえば、「キャリアウーマン」や「キャリア官僚」など、豊富な職業経験や高度な試験を受ける必要があるようなイメージを抱きがちだが、いったい「キャリア教育」とはどんなものなのか。いまでは小学校段階から行われ、子どもたちの「生きる力」をはぐくみ、地域との結びつきを深めようとしている「キャリア教育」の現状と課題を考えてみたい。

体験することの大切さ

「いらっしゃいませ！」
「これは安いですよ！」
街中の商店街の一角で、子どもたちのにぎやかな掛け声が響き渡る。子どもたち自らが店を開き、商売の仕組みや楽しさ、苦労などを実際に体験する「キッズマート」の試みだ。大阪市内では2008年度に小学校13校で開いた。市立日本橋小学校（浪速区）で、「自分を成長させる旅」と位置づけ、06年に行った「キッズマート」の報告から紹介すると――

店を開くのは5、6年生の児童たち。まず地元の「御蔵跡商店街」のいろんな職場を見学し、下駄やぞうりをつくっているおじさんたちから仕事場を見せてもらった。
「下駄って、そうやってつくるの？」
「手の動きがすごい！」
子どもたちは職人たちのみごとな手さばきに目を輝かせて見入った。
税理士さんからは問屋街の働き、商売のしくみを学んだあと、大阪の流通の中で大きな役割を果たしている東部市場を見学。社会の最前線で働く喜び、苦労を聞きながら、子どもたちは、将来の自分の生き方や仕事へのイメージをはぐくんだ。
ただ単に仕事の話を聞くだけではない。キッズマートは、自分たちで店を開くという体験を通して、困難な場面にでくわしても、仲間と協力しながら課題の解決を図る力を養うのが狙いで、子どもたちは社会にかかわっているという感覚を高めていく。さらに、自分たちが生活している地域について知り、考え、誇りを持てるようにもなる。
「商品を仕入れるにはどうしたらいいの？」
地元の商店街に協力してもらい、子どもたちは店作り、仕入れの方法の調査から始める。どんな品物を売るのか。商店街での価格調査や陳列方法などを調べて回る。どんな店を開き、どんな品物を並べると、どれだけ利益が得られるか。そんな見通しをたて、品物を集めるには上手にプレゼンテーションしなくてはならない。さらにポスターやビラ張りなどの広告、宣伝活動をし

海の恵み にがりを残した
はかた
伯方の塩®
※伯方の塩®は、自然の風と太陽熱で蒸発結晶させたメキシコの天日塩田塩を日本の海水で溶かして原料とし、CO_2の排出を少なくしています。
伯方塩業株式会社
〒790-0813 愛媛県松山市萱町4丁目-4-9
TEL089-911-4140(代) FAX089-923-9671
ホームページ http://www.hakatanoshio.co.jp/



小学校におけるキャリア教育の目標

○自己及び他者への積極的関心を形成・発展
○身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上
○夢や希望、憧れる自己イメージの獲得
○勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成

学ぶこと　生きること　働くこと

人間関係形成能力　情報活用能力　将来設計能力　意思決定能力

高学年
・委員会活動
・児童会活動
・働く意義の理解
・異なる意見や立場の尊重
・中学校の先輩に学ぶ
・産業に携わる人々に学ぶ

・自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを体得する。
・集団の中で自己を生かす。
・社会と自己のかかわりから、自らの夢や希望をふくらませる。

中学年
・係活動
・当番活動
・地域の産業・職業
・友達との相互理解
・進んで働く態度
・様々な職場の見学
・地域の伝統産業
・商店街の見学

・友達と協力して活動する中で関わりを深める。
・自分の持ち味を発揮し、役割を自覚する。

低学年
・係活動
・当番活動
・幼稚園等との交流
・地域探検
・野菜作り
・家の手伝い

・小学校生活に適応する。
・身の回りの事象への関心を高める。
・自分の好きなことを見つけて、のびのびと活動する。

各教科　道徳　特別活動　総合的な学習の時間

縦割り班活動　教育相談

体験的な活動の場の工夫　ポートフォリオの活用

ボランティア活動　社会体験　見学や調査　ものづくりや生産活動

学校・家庭・地域での人・社会・自然・文化等とのかかわり

・キャリア教育に関する学校全体の共通理解と教員研修
・キャリア教育の視点を生かした教育課程の編成
・家庭・地域との連携と開かれた学校づくり

＝文部科学省の資料から

て社会の仕組みを学んでいく。

「ありがとうございます！」

「また、売れた！」

実際に店先で品物やお金が動いていくと、子どもたちはいきいきとした表情になる。近所の人たちも「がんばってね！」を子どもたちに声をかけ、多くの人とのふれあいの輪が広がっていく。この日を楽しみに集まってくるお年寄りも少なくない。

最後に収支決算し、利益をどう配分するかをみんなで考える。さらに世話になった人たちへのお礼の手紙も書く。裏方に回って、子どもたちを支えた教師たちは「実際に店を開くことで、他人から言われて働くのではなく、自分で考え、自分の意見をいわなくてなりません。チームで活動することの大切さを実感することができているようです」と話している。学校から地域へと子どもたちが出ていくことで、地域とのつながりも深まっているようだ。

希薄化する職業意識

キャリア（career）には、「仕事、職業」「経歴、生涯」「仕事上の、職業（生活）上の」などの広い意味がある。それに教育という言葉がついた「キャリア教育」という考え方は1970年代の初め、アメリカから始まったといわれる。当時、アメリカは、加速化する社会変化に対して学校は伝統的な職業教育にこだわり、対応できなかった。そこで職業教育を抜本的に改革し、新しい視点から学校の教育全体を見直そうとした。

学校教育や職業、進路の教育指導の活性化を図るために77年、「キャリア教育奨励法」が成立。そこでは、「キャリア教育とは、個人が人間の生き方の一部として職業や進路について学び、人生上の役割やその選択と職業的価値観とを関連づけることができるように計画化された経験の全体である」としている。その後、現在に至るまで組織的・継続的な努力が続けられている。

日本で「キャリア教育」を教育行政上での課題としてとりあげたのは、1999（平成11）年12月の中央教育審議会答申だ。そこでは、「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己

Good Day Good Bread

食卓でのいい出会いを大切に、
気分のいい食事から一日を元気に
弾ませたい。ヤマザキはそう願って
パンをお届けしています。

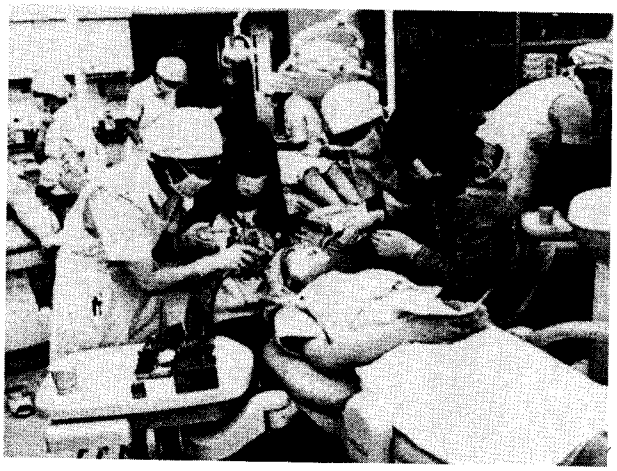
www.yamazakipan.co.jp

の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」と定義している。それまでの「進路指導」にとどまらず、あえてカタカナ言葉に置き換えたのは、社会の移り変わりの中で職業意識が希薄化しているという危機感の表れだった。

社会の基盤は「人」

昔に比べて、街の商店街が消え、スーパーやコンビニが広がっていく中で、多彩な職業が「会社員」という名前でくくられるようになった。子どもたちが将来の仕事のことを具体的に思い描くことが難しくなってきている。

高校を卒業し、就職するとき、職業意識がはっきりもてないことが、早期に退職し、ニートやフリーターの一因となっている。大学まで進学するにせよ、いつかは就職しなくてはならない。そこで、小さいうちから「学ぶこと」「働くこと」「生きること」を意識させ、理解を深める必要がある、という経済界からも要望がひろがってきた。



実際に08年版「青少年白書」を広げると、若者の間でフリーターの総数は減っているものの、25歳から34歳までの年長者層では減少幅が少なく、フリーターの状態が固定化している。07年の15―34歳のフリーターは181万人で、03年の217万人をピークに4年連続で減少。このうち15―24歳が4年で30

万人減少した一方で、25―34歳の年長者層は6万人減にとどまった。

さらに05年3月卒業者した若者が就職後3年間の離職状況を調べると、中学校卒業者で就職者全体の66・7％高等学校卒業者で47・9％大学卒業者で35・9％がそれぞれ離職している。中学校卒業者及び高等学校卒業者のいずれも就職後1年目に離職する者の割合が高く、特に中学校卒業者については半数近くになっている。このように離職率が高まる中で、若い人たちにどのような職業観、勤労観を育てていけばいいのだろうか。

あらゆる社会・経済活動の基盤となるのは「人」であることはいうまでもない。わたしたちの未来は、これからの社会を担う人材をいかに育てるかにかかっている。しかし、若い人たちの「意欲・やる気」、「主体性・自律性」、「コミュニケーション能力」などが低下してはいないだろうか。そんな指摘があちこちから聞かれるようになって久しいが、将来に夢と希望を持ち、活力に満ちた若者を育てるのはいつの時代にも求められる大きな課題だ。すべての子ども・若者たちに将来の夢を育むきっかけを与え、夢をかなえたいという意欲を引き出し、育てようというのが「キャリア教育」だ。

社会力を育てる

「キャリア教育」とは、フリーター・ニートの予防にとどまらない。一人ひとりが将来に向けて自分にあった生き方を主体的に選択する力を身に付けてもらおうという目標を掲げている。実際に育成しようとしているのは、次の4領域8能力に整理されている。

①「人間関係形成能力」

・「自他の理解能力」…自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力

・「コミュニケーション能力」…多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力

②「情報活用能力」

・「情報収集・探索能力」…進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力

・「職業理解能力」…様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今やらなければならないこと等を理解していく能力

③「将来設計能力」

・「役割把握・認識能力」…生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力

・「計画実行能力」…目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力

④「意思決定能力」

・「選択能力」…様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力

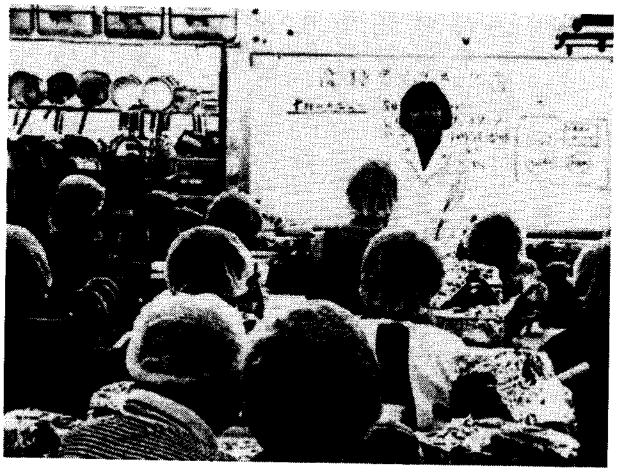
・「課題解決能力」…意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力

・・・・・・・・・・・・・・・・・

要するに、職業体験を通して、他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組むことの大切さを学ばせようというのだ。そうして自己の進路や生き方の選択をできるだけ早期の段階から考える機会を設けようとしている。

「総合的な学習」と重なる理念

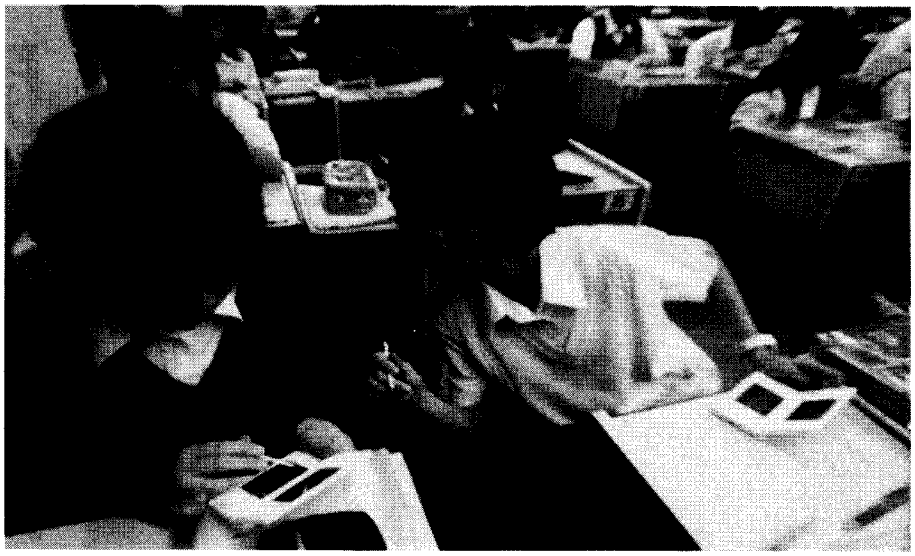
大阪市では05年度から「キャリア教育推進事業」を実施。各地域の行政機関、経済団体、NPO、ボランティアと小、中、高校が連携した「大阪キャリア教育支援ステーション」も設置された。社会人講師の学校への派遣、施設や職場見学、職場体験、インターンシップの受け入れ先の紹介、教員研修への講師の派遣などの活動を展開している。



現在、大阪市内の全小学校で地域の職場見学を行っている。地域の実情に合わせて見学先は多彩で、専門学校の多い大阪市天王寺区の桃陽小学校では、校区内にある理容・美容、栄養士、歯科衛生士の4つの専門学校を訪ねている。

歯科衛生士の専門学校では、歯磨きの磨き残しの検査方法を見学、実際にゴム手袋とマスクをつけて、口の中を洗う専用の機械の操作を体験。栄養士の専門学校では調理実習を、理容・美容の専門学校ではヘアメークや着物の着付けなどを見て、子どもたちは目を輝かせていた。

「学ぶこと」と「生きること」「働くこと」を関連付ける意味は大きい。子ども・若者たちが自ら学ぶ意欲のないところに学力向上はあり得ないし、「キャリア教育」は「学力向上に直結しない教育」どころか、子ども・若者



たちのやる気に火をともす。主体性・自律性に働きかけるから、学力向上にも大いに寄与する教育としても期待できる。

その理念・目的は、「総合的な学習」のそれと重なる部分が多く、「総合的な学習の時間」の活用をはじめ、ホームルーム・学級活動や進路指導、教科学習の中でも展開していくべきだろう。

小学生の段階でも、子どもたちはぼんやりとしたものとはいえ、将来への夢を抱いている。身近な人々から仕事の内容について聞いたり、実際に職場を訪問し見学したりする学習活動と自分自身に関する理解を深めていくことはできる。

さらに、子どもたちだけではなく、教師自身も職業についての厳しさを再認識し、どういう力をつけなければならないかを考えるいい機会にもなっている。

加速化を求める論議も

中央教育審議会（中教審）は現在、小学校から大学までをとおした「キャリア教育」の見直しを審議している。世界的な不況による新卒者への「内定取り消し」、派遣労働者への「雇い止め」など、雇用問題が深刻化する中で、勤労観をどう育成していくのかという課題が大きくなってきたからだ。

教育基本法の改正を受けて策定された政府の教育振興基本計画の中にも「キャリア教育の充実」が盛り込まれ、新しい学習指導要領にもその理念が入っている。だが、そのことがまだ学校で十分に実施されてはいない。

学校から社会への「接続」をどのようにしていくのか。中教審では、学校から社会への円滑な移行のために、小学校から大学までの各段階で身に付けるべき能力を明らかにして、体系的な「キャリア教育」の一層の充実を図ることにしている。

子どもたちの人間関係能力や将来設計能力などの育成を掲げている「キャリア教育」。それは、あらためていうまでもなく、子どもたちが社会の中でたくましく生きていく力、いわば「社会力」をはぐくむものだ。自分で自分の人生を切り開いていく力は、学校だけではなく、家庭や地域の暮らしを通して子どもたちにしっかりと身に付けさせていきたい。

（写真は大阪市教育委員会提供）

NL

2009

5

CONTENTS

教育の広場

●小学校から始まる「キャリア教育」
「生きる力」を育てるために 4

NEWS ROTARY

●なるか悲願の東京五輪招致
開催地決定のIOC総会まで半年 12
石橋信夫記念館文化フォーラム 20
ラグジュアリー・ファッションの欲望展　京都国立博物館 21
患者優先・安定供給—信頼のジェネリック医薬品 22
健康な食生活を通して予防医学を考える
—トルコ産ヘーゼルナッツの活用 26
イヤホン＋マイク＋耳栓　人の耳を守るインコア 30
食後の血糖値が気になる方へ
特定保健用食品「モーニングバランス」を発売 54
少なめ油でもおいしく調理　日清キャノーラ油エコアップ 55

REGULARS

女性ホルモンの神秘と効用 19
回虫博士の世界漫遊紀行 32
医療事情のウラオモテ 36
獣医師は、なぜ、動物の言葉がわかるの？ 46
あのときこんなこと 47
たかが　われらが日々？ 56
なまずのひとりごと 60
どれみの鼻歌 62
どこで憩うか—温泉——日本の島の湯宿巡り② 65
食と健康—内臓脂肪　つきやすいメニューつきにくいメニュー③ 68
リビング特集　癒しの「和グッズ」で生活に潤いを② 71
LIBRARY 74
5月の運勢 77
編集後記 78

表紙写真　森村　進